

## ○日常生活

### ・大晦日 (Silvester) と新年 (Neuesjahre)

12月23日前後から授業も休みになり **Weinachtenferien** (クリスマス休暇) が始まる。映画「ハリーポッター」シリーズを見たことのある方は想像がつくかもしれないが、12月の20日を過ぎたあたりから学校や寮から学生がどんどんいなくなる。皆クリスマスと新年を家族とすごすために帰省するからである。本当に寮などは誰もいなくなるのである。私はクリスマス休みに入る直前まで授業はすべて参加していたが、特にほかの留学生と受けている **DAF** の授業などは、キリスト教徒ではない生徒以外はみな自分の国へ帰ってしまっていたのでほとんど人がいなかった。

**Weinachtenferien** は2週間ほどあり、日本より少し長い程度である。この間何もしないでいるのは勿体ないと考え、私も他の日本人留学生たちと **Berlin・Tromso・Stockholm** を巡る旅行に出かけた。もともとは北欧のみ訪れる予定であったのだが、**Berlin** の **Brandenburger Tur** 前で行われる年越しイベントに参加してみたかったので急遽追加したのである。

**Trier** から高速バスに乗り約10時間で **Berlin** に到着。ここで驚いたのがフランスとの国境付近に位置する **Trier** から **Berlin** まで直通のバスが出ていることである。私たちは **FlixBus** という会社を利用したのだが、この会社のバスはヨーロッパ全土で広く営業しており、安く旅行したい場合非常に役に立つ。**Trier** から遠くは東欧の町まで乗り換えなしで行くことができる。

**Berlin** では戦勝記念塔やユダヤ人犠牲者記念館、ベルリン大聖堂など十数か所を、「地球の歩き方」を片手に三日かけて歩き回った。**Berlin** 滞在二日目の夜に、**Brandenburger Tur** の年越しイベントに参加したが、本当に「すごい」の一言であった。入場規制が敷かれるため、18:30ごろと早めに会場に行ったので24:00を迎えるまでの数時間は人に押され、座ることもできず、ひたすら辛かった。しかし新年を迎えた瞬間のあの何とも言えない高揚感は疲労も寒さもすべて吹き飛ばすほどであった。

ドイツでは新年のみ花火の使用が許可される。元旦を迎えると所かまわず花火や爆竹を派手に打ち上げて、その音で悪霊を追い払うためである。新年を迎えた直後から **Berlin** でも路上でたくさんの方が花火をどんどん打ち上げ、それは明け方まで続いた。通行人のことなど構わず皆打ち上げるので、身の危険を感じたし、**Potzdammerplatz** がまるで戦場のような有様だったが、それでもとても楽しかった。その後の北欧での旅行も、トラブルがありはしたが、今までで一番楽しく、そして日本とヨーロッパのいろいろな違いを知るきっかけになった旅行であったと思う。

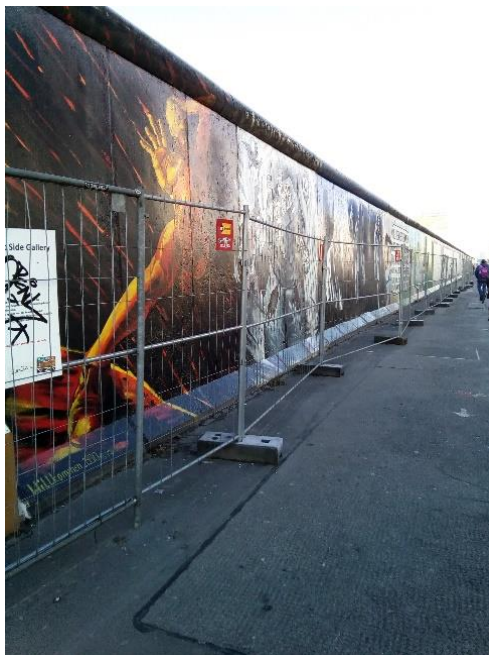
・ Valentain tag バレンタインデー

日本でのバレンタインというと、友達や恋人、家族にチョコをプレゼントする日、というイメージが強いがここドイツでは日本のようには盛り上がらない。私の Tandem パートナーに聞くところによればカップルの男性が女性に花を贈る日という考えが一般的とのこと。日本のように女性が「義理チョコ」「友チョコ」として男女関係なく大勢の人に渡すように、こちらで同じことをしてしまうと変な誤解が生まれてしまうので、注意が必要である。

○学校生活

・ 期末テスト die Prüfung

Winter semester の期末テストは二月の第二週からと、日本の大学より少し時期が遅い。日本の大学でなら、テストは受講者全員が自動的に受けることができるが、トリア大学では一度 Porta というサイトから登録しないとテストは受けられない。もし登録期間に間に合わなかった場合は先生にメールを送ればよい。テストの時の受け方は本当に日本と同じで、机の上は筆記用具と学生証のみ、席は隣と一つ開けて座る等なじみのあるやり方ばかりであったが、一つだけ違うのはテスト中飲み物を飲むことが許可されていることである。私の前の席の人がひたすらコーラをテスト中に飲んでいて、とても印象的であった。テストの問題形式だが、日本のテストは選択肢があったりや○×問題、空欄を埋める問題などがあるが、こちらではほとんどが自分の考えを述べたり、授業内容から論理的に考察して述べるような記述問題である。授業内容を丸覚えするだけではテストに答えられないようになっている。教えられたことからさらに自分で論理的に考えてテストの時回答する必要がある。DAF のリスニングのテストでさえ、聞こえた内容から考えた自分の意見を述べるというような問題があったほどである。負担は大きいとは思いますが、このような出題形式の方がすべての授業内容が自分の中にしっかり蓄積されている実感がわく。



←ベルリンの壁 ベルリンにて